

ガラス工作技術ミニシンポジウムへの参加

川崎竜馬、森木義隆

工学系技術支援室 装置開発技術系

はじめに

平成 24 年度のガラス工作技術ミニシンポジウムが埼玉大学で開催され、それに聴講参加した。全国の大学等の教育機関に所属するガラス加工技術者が集まり日頃の業務で培った技術等を発表し討論を行った。その中で技術交流を通して情報収集を行った。以下に概要について報告する。

1. 概要

はじめにシンポジウム会場の埼玉大学総合研究棟 1 階シアター教室でガラス工作技術ミニシンポジウムが行われた。次に企業見学として光信理化学製作所を訪問した。その後シンポジウム会場に戻り、技術討論会と交流会を行った。表 1 はそのプログラムを示す。

表 1 プログラム

日 時	内 容
平成 24 年 9 月 7 日 10 時～10 時 25 分	参加者受付 ニミシンポジウム実行委員長 挨拶 研究機構総合技術支援センター長 //
10 時 25 分～16 時 20 分	技術報告・企業見学
16 時 20 分～17 時	技術討論「ガラス加工業務について」 協議事項「次期開催地について」
17 時～17 時 30 分	会場移動・休憩
17 時 30 分～19 時 30 分	技術交流会 埼玉大学第 1 生協 (けやきホール)

2. 内容

シンポジウムは午前と午後に分かれ技術報告 5 件が行われた。さらに午後のセッションで企業見学を行った。(図 1) 光信理化学製作所ではガラス製品の加工現場の他にガラス細工用バーナーを製作しているようすや実際に炎を出してテストしているようすを見ることができた。(図 2) 企業見学から戻った後の技術討論では他大学の職員の事例発表のテーマとして植物を材料にしたガラスを作る技術について報告がなされた。その後の質疑応答では活発な議論が行われた。(図 3) その後ガラスフォーラムの次期開催地について話し合われた。



図1 工場見学の様子



図2 ハンドバーナーの様子



図3 討論会の様子

3. まとめ

今回の技術報告の中で大学の地域貢献の一環としてガラス細工講習会の活動内容の発表を聴講した。大学内だけでなくガラス技術者が高校などの他の教育機関に必要とされていることを知った。また高校へのガラス細工講習会の案内方法として教育委員会を通して行うことやその講習内容などについての情報を得ることができた。企業見学ではガラスジョイントなどの製作工程を間近で見て、職員との対話を通じて一般企業のガラス加工技術の高さを知ることができた。バーナーの製作現場では光信理化学製作所で作られるバーナーの性能や特徴について情報収集をすることができた。このシンポジウムで得たものを日頃の技術支援業務で活かせるよう取り組んでいきたい。

4. 謝辞

今回このような機会を与えて下さいました工学系技術支援室ならびに埼玉大学の職員の方々、光信理化学製作所の方々に深くお礼申し上げます。